

釧路南ロータリークラブ会報

第10回 例会報告 2014.9.12 通算1553回

・点 鐘 長倉副会長

・ロ-タリ-ソング
「手に手つないで」



ソングリーダー 日向 乃里衣会員

・入会記念祝

亀井 麻也会員 H24. 9. 14 (2年目)



・会 長 挨拶



皆さん、こんにちは。

最近、飲む機会が多くて昨日も、会合で遅くなり若干頭が回っていないようで、今日のスピーチも考えてなく何を話そうか考えが纏まりません。

そんなわけで、昨日の夜の話をして。

2次会を終えて3次会で行く途中で、占いをやっている女性を見かけ占ってもらいました。

「相手の事を思いやり、人のために一生懸命になり過ぎることがある」それは仕事でいい結果に繋がると言ってくれました。

女性にも、いうことを全部聞きすぎるので、3回に1回は断った方がいいと言われました。

「へ～そうかな？そうかもしれないな～」

今年度のガバナーの信条は、「誠心誠意」です。

是非、誠心誠意人の事を思いやり、今年度もガバナーの方針に添って頑張ってください。

・幹 事 報 告



* 釧路バイククラブへの集団メーキャップ出席者の返信が本日までとなっております。まだ、ご連絡いただけてない方は、幹事までよろしくお願いたします。

* 釧路北ロータアクトクラブより例会の案内が届いております。例会内容は、「白血病について」です。

* 白糖ロータリークラブ様より9月の例会プログラムが届いております。併せて回覧してください。

・委員会報告

親睦委員会

・本日のニコニコ献金

亀井 麻也会員 入会記念祝として

・本日のプログラム

「ライラ・ポリオ理解報告」

担当 クラブ管理委員会



本日の例会は「ライラ・ポリオ理解報告」となっておりますが、報告というより理解を深めるための例会とさせていただきます。

まずは、今月、9月13日（土）～15日（祝）の3日間で帯広の地で「ライラセミナー」が開催されますが、当クラブからの出席はありませんので、先程伝えましたが、ライラとは？なんなのかを理解していただきます。

ライラとは…

RYLA のいわれ、1959 年オーストラリア・クィーンズランド州の自治権獲得百周年祝賀会にイングランドのエリザベス女王を名代として派遣されました。これを機会に王女と同世代の青年たちを招き、王女と会う機会を作ろうという計画がもちあがり、オーストラリア中から集まった青年リーダーたちのホストをブリスベンロータリークラブが務めました。青少年の資質の良さに感心したロータリアン達は、この催しを毎年行う事を決め、各クラブ2名ずつの青年を選んでブリスベンに招待し、1週間、文化・社会・教育プログラムに参加させることにしました。

こうして RYLA は第 26 地区（現在の第 960 地区）で生まれ、そして 1971 年にロータリーの国際組織である R. I. に取り上げられ、RYLA (Rotary Youth Leadership Award) 「ロータリー青少年指導者養成プログラム」として位置付けられ、世界的なプログラムに発展し、1973 年にはアメリカで、1976 年（昭和 51 年）には

日本でも始められました。第 2500 地区では、1979 年（昭和 54 年）山川久明ガバナー年度に旭川の地で第 1 回目が開催され、今回で 34 回目になります。

RYLA は、14 歳から 30 歳までの青少年を対象に、ロータリアンと知り合う機会を提供し、参加者同士が共に時間を過ごし、指導力、奉仕の精神を伝え、友愛を深めることを目的としています。

1. 青少年の指導力と善良な市民精神という資質を伸ばす。
2. 選ばれた指導者の資質をもつ者に経験をつませ、その資質の発展と向上を奨励し援助する。
3. 参加者が自分達の地域社会に奉仕するための、知識あるいは人間関係等を限られた時間で学ぶ。
4. 様々な人達と出会い、新しい友人をつくり共に学び、友愛を深める機会を提供する。
5. ロータリーが青少年を尊重し、かつ青少年に関心を抱いていることを明らかにする。

次に、ポリオ撲滅とか財団寄付とかでロータリーでは『ポリオ』とよく耳にすることがあります。

そのポリオとは、どのような病気であり、どのようにロータリーは関わっているのかを改めて説明し、理解していただきたいと思います。

『ポリオ』とは…

ポリオ撲滅への闘い

ポリオ（小児まひ）は、体がまひしたり、命を落とすことさえある病気です。国際ロータリーでは、資金集めをしたり、ワクチン投与をしたり、長年にわたって、ポリオの撲滅に取り組んできました。

ポリオ撲滅に向けて始動

1979 年 9 月、国際ロータリーは、フィリピンで、生後 3 か月から 36 か月の子ども約 600 万人に対して、5 か年計画のポリオ免疫活動を始めました。これが、ロータリーがポリオ撲滅に取り組んだ第一歩です。

1985 年、国際ロータリーでは、ロータリー創始 80 周年に当たって、「ポリオ・プラス計画」を発表。日本国内では、募金総額 40 億円を最終目標として、1986 年 7 月から、5 年計画のポリオ・プラスの募金キャンペーンが始まりました。日本中のロータリアンの積極的に取り組み、このキャンペーンが展開されていた 1986 年 7 月から 1991 年 6 月までの 5 年間で、目標額をはるかに超える約 49 億円の寄付金を集めることができました。

国際ロータリーでは、1989 年 6 月までの 3 年間でキャンペーン期間としていましたが、この間で米貨 2

億4,700万ドル(約270億円)を集めました。
これは目標額の2倍に相当します。

世界ポリオ撲滅推進計画が発足

1988年、国際ロータリーは、世界保健機関(WHO)、ユニセフ、アメリカ疾病対策センター(CDC)とともに、世界ポリオ撲滅推進計画(GPEI)の発足に携わりました。

以来、世界でポリオ感染数は99%減少し、毎年35万件あった感染は、2012年にわずか223件にまで減少しました。2013年は、さらにこの数が減少するだろうと期待されています。

現在も感染が続いている国は、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの3か国です。しかし、国境を超えて人が行き来をする現代、ほかの国にもウイルスが流入して感染が広がる可能性があるため、完全な撲滅まで、予断を許さない状況です。
ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団からの資金提供

2007年11月26日、国際ロータリーは、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団と協同して、世界ポリオ撲滅に必要とされる2億米ドルを投入することを発表しました。ゲイツ財団から1億ドルの補助金を受領したロータリー財団は、この時点から3年間にこれと同額の資金を調達するための募金活動を行っていくことになりました。

2009年1月、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団は、国際ロータリーに対して、さらに2億5,500万ドルを寄付。国際ロータリーではこれを受けて、2012年までにさらに1億ドル、2007年11月にスタートしたものと合わせて2億ドルの資金を集めることを表明しました。全世界のロータリアン(ロータリークラブ会員)は、「ロータリー2億ドルのチャレンジ」と称し、ポリオ撲滅のための資金集めをした結果、その6月を待たずに目標額達成しました。ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団は、この功績に対し、さらに5,000万ドルを国際ロータリーに寄付しました。

最終段階に向けて

2013年6月、国際ロータリーとビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団は、ポリオの撲滅活動を支援するパートナーシップの拡大を発表しました。今後5年間、ロータリーがポリオ撲滅の寄せる寄付に対して、ゲイツ財団が2倍の額を上乗せするというものです(対象となる寄付額は各年3,500万ドルまで)。

このパートナーシップを通じて、最高総額5億2,500万ドルの資金を確保できることとなります。

ロータリーがこれまでにポリオ撲滅活動で寄付した総額は、12億ドルに上ります。寄付金は、すべてポリオ感染国での予防接種活動に充てられます。

ロータリアンたちは、もちろんお金を集めていただけではありません。多くのロータリアンが道路もないようなへき地に分け入り、紛争地帯に赴き、実際にポリオワクチンを子どもたちに届けるための活動もしています。紛争地帯では、双方の代表者を説得してポリオワクチン投与のために一時休戦にしたり、宗教上などの理由からポリオワクチンの投与を拒む人々を説得したり、さまざまな活動をしてきました。

世界中のさまざまな地域にロータリークラブがあり、ロータリアンたちが活動をしています。それぞれの地域で、ロータリアンたちがさまざまな形で、すべての子どもたちにポリオワクチンの投与をするために努力を続けています。

ポリオ撲滅まで「あと少し」ですが、そのための資金不足は深刻な問題です。街で募金活動をしているロータリークラブの会員を見つけたら、ぜひ、ご協力ください。

また、ロータリークラブの会員でなくても、公益法人ロータリー日本財団を通してポリオ撲滅のための寄付をすることができます。

皆さまのご協力をお待ちしています。

以上で「ライラ・ポリオ」を説明させていただきました。ライラに関しては今年度の参加はありませんでしたが、次年度は是非参加してみたいでしょうか？

ポリオに関しても再度ご理解していただけたかと思いますので寄付も併せてお願いいたします。



・次回のプログラム

9月19日(金)

「家族同伴スポーツ例会」

時間・場所はおってご案内します。

担当：親睦活動委員会

・点 鐘 長倉副会長

今週の会報担当：奈良清成会員